

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
------	----	-----	----	-----	----	-----

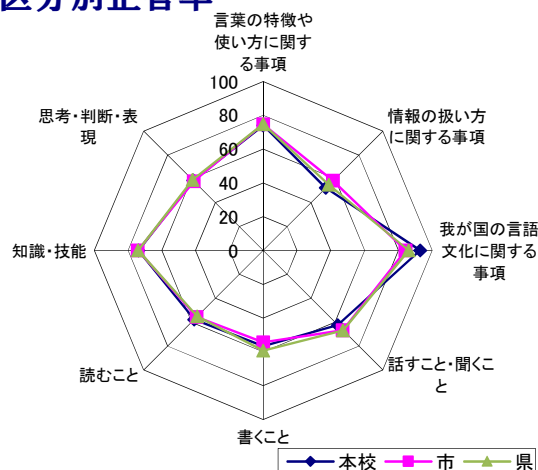
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.1	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	52.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	92.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	62.5	66.7	66.9
	書くこと	56.6	54.3	59.3
	読むこと	57.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	73.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	58.6	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

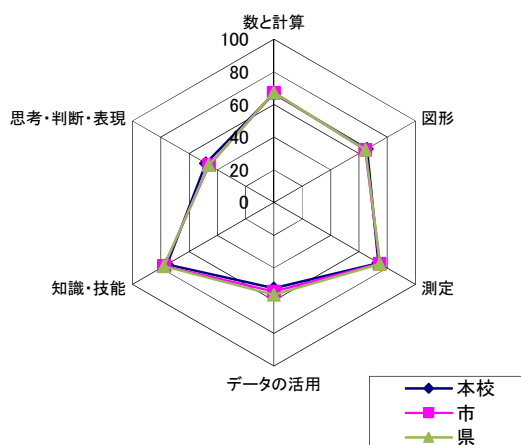
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字の読みに関する問題の平均正答率は、市や県と同等、問題によっては県の平均正答率を上回るものもあった。 ●漢字を書く問題では、どの問題も県の平均正答率を下回った。既習の漢字を書くことに課題が見られる。	・漢字を学習する時には、漢字の意味を考える時間をくったり、漢字の成り立ちを学んだりすることで、興味関心をもって漢字を習得させていきたい。 ・朝の学習等の時間を使って、これまでに学習した漢字のミニテストを実施していくことで、既習の漢字を身に付けさせていきたい。
情報の扱いに関する事項	●国語辞典の使い方についての問題では、県の平均正答率を2.6ポイント下回っている。複数の意味を持つ言葉の中で、適した意味を選択する力が不十分であると考えられる。	・分からない言葉があるときに、前後の文章からおおよその意味を予測した上で、国語辞典を使用させたい。複数の意味がある場合には、予測した意味に近いものを選ぶよう指導していきたい。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字の部首についての問題では、県の平均正答率を6.8ポイント上回った。へんやつくりを意識して、漢字を覚えている児童が多いことがうかがえる。	・新出漢字を学習する時には、漢字スキルを活用しながら、へんやつくりなどの部首、画数、音訓読みなど、引き続き意識をさせた指導をしていきたい。
話すこと・聞くこと	○話の内容を選択する問題では、県の平均正答率を0.9ポイント上回った。話の中心を捉えることができていると考えられる。 ●話し合いで出た考えをまとめた言葉を記述する問題では、県の平均正答率を15.3ポイント下回った。話し合い活動の中で、複数の意見をまとめていくことが課題である。	・提案者は自分の考えを理由付けて話し、司会者は相手の考えや理由を聞き逃さないようにしたり、話し合いの議題に沿っているかを判断したりして、話し合い活動を行っていく。 ・話し合い活動の中で、考えを集約していくときに、多数決等で決定していくのではなく、出た意見の相違点を見つけてグループ分けしたり、意見をまとめていくようにする。
書くこと	●自分の考えを条件に沿って記述する問題では、県の平均正答率と同等、または下回るものが多かった。自分の考えを理由を付けて明確にすることや条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。	・児童の実態に合わせた条件を設定し、国語の授業だけでなく、様々な場面で自分の考えを文章に書く活動を取り入れていきたい。
読むこと	○物語文の設問では、どの問題も県の平均正答率を上回った。叙述を基に、登場人物の行動や気持ちを読み取れていることがうかがえる。 ●説明文の段落のまとまりを捉える問題では、県の平均正答率を9.8ポイント下回った。段落ごとの内容を読み取ることに課題が見られる。	・授業のはじめに、それぞれの説明文の主題を明確にしていく活動を必ず取り入れていくようにする。 ・段落分けをするだけでなく、段落ごとに要約をしたり、主題に沿っていくつかのまとまりに分けたりする活動を児童主体で取り入れていきたい。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	67.3	67.4
	図形	65.7	64.5	64.7
	測定	73.8	74.7	74.9
	データの活用	52.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	75.7	77.6	77.8
	思考・判断・表現	48.1	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

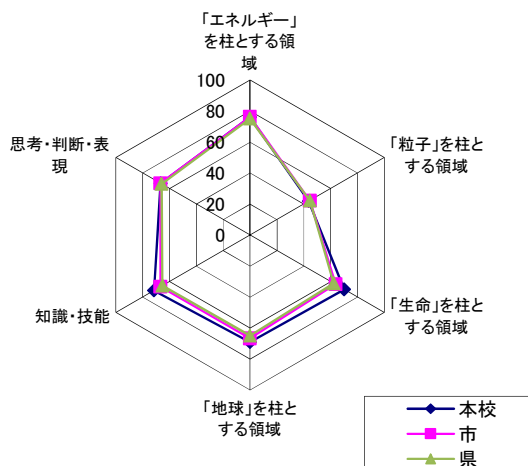
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は県や市の平均より低かった。</p> <p>○少数の表し方、2桁×1桁＝3桁のかけ算、2桁÷1桁（余りなし）のわり算、同分母のたし算は9割を超える正答率で定着していると考えられる。</p> <p>●数直線の1目盛りが表す大きさや、少数を含む引き算、□を使って問題を図に表す問題の正答率は5割を切った。</p> <p>●式の意味を理解し説明することについては、1割を切っている。</p>	<p>・基礎的な計算は定着している児童が比較的多いと考えられるため、今後も授業での理解を図り、練習問題や家庭学習で定着させることを目指す。</p> <p>・数直線の目盛りの読み取りはできていてもそれを分数で表すことができいないため、数直線と分数の基礎の確認とそれぞれがリンクできるように応用する力をつける。</p> <p>・整数－小数の計算では、整数も小数で表せることの理解を深める。</p> <p>・□を使った式は図や表に表して視覚化し、何を求めればよいのかを考えさせる指導をする。</p>
図形	<p>平均正答率は県や市の平均より高かった。</p> <p>○半径と直径についてや二等辺三角形を作図する問題については、市や県の平均を上回った。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形を作図する問題は5割前後だった。</p>	<p>・球の半径から直径を計算する問題は9割弱の正答率があったものの、それを応用する問題では6割強に留まったため、様々な応用問題を用意し慣れさせることが必要だと考える。</p> <p>・円と正三角形の性質を正しく理解させた上で、コンパスや定規を用いて作図することを繰り返し学習する。</p> <p>・図形の問題5問中2問がテスト後半にあることから、十分な時間がなかった児童もいることが考えられるため、時間配分の指導が必要だとも考えられる。</p>
測定	<p>平均正答率は県や市の平均より低かった。</p> <p>○地図から道のりを計算したり、はかりの目盛りを読み取ったりすることは、県や市の平均を上回った。</p> <p>●時間の経過する前の時刻を求める問題については、正答率は悪くないが、無回答率が9.5パーセントとなっている。</p> <p>●はかりの目盛りの読み取りは5割程度。</p>	<p>・時計の読み方の定着率が児童によって大きく異なることが分かる。生活の中で時計を読ませたり練習問題で経験を積ませたりすることはもちろんだが、不十分な児童のために、学習後も生活の中に取り入れやすい内容であることから、時刻を読んだり、時間の流れを意識させることが必要である。</p> <p>・様々な物の測定の経験を数多くすることで、量や重さの感覚を養うようにしていく。</p> <p>・大きな目盛りとその間の小さな目盛りを適切に読めるように、1目盛りの大きさの単位を正確に理解できるように指導する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は県や市の平均より低かった。</p> <p>○棒グラフの読み取りは8割を超えた。</p> <p>●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取る問題の正答率は2割ほどと、とても低かった。</p>	<p>・基本的な棒グラフの読み方はできているが、2つのグラフの比較になるとできていない。それぞれのグラフから読み取れることと選択肢の文章をリンクさせることができていない。このことから、グラフを比較する際には、それぞれの1目盛りの大きさを必ず確認することや、それぞれの数を書き出して、棒の長さを比べるのではなく数を比較することの理解を深める必要がある。</p>

宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	43.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	70.1	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	69.1	66.6	64.9
観点	知識・技能	71.6	66.8	65.4
	思考・判断・表現	66.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>○「風やゴムのはたらき」や「音のせいしつ」の問題では県や市の平均を上回る正答率だった。</p> <p>○知識、技能を問う問題の正答率が市や県の平均より高く、基礎的な内容が身につけていることが分かる。</p> <p>●「光のせいしつ」の実験の結果として適切な記録を選ぶ問題では、県や市の平均より13ポイントも低く、目的に応じた記録の表し方に課題が見られる。</p> <p>●電気を通す物質を問う設問では、正答率が78.6%で県の平均を10ポイント下回っている。</p>	<p>・実験を行うときには、実験の目的をよく理解したうえで取り組むようにする。そして、得られた結果をまとめ、考察を文章でまとめる時間をできるだけ設定し、自分の考えの根拠となった理由を適切に表現できるよう指導していく。</p> <p>・電気を通す物質を確かめる実験を丁寧に時間をかけて行い、経験を通して、電気を通す物と通さない物について理解できるようにする。また、理解したことを日常生活の中で生かす活動を行わせ、理解を深める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。</p> <p>○ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を答える問題では、83.3%と県や市の平均より5ポイント近く正答率が高かった。</p> <p>●姿勢を変えて図った体重が変化するかを実験結果をもとに記述する問題は正答率が7.1%と低く、課題がある。</p> <p>●形を変えた粘土の重さについて選ぶ問題では、市や県の正答率より5ポイント低い。</p>	<p>・同じ重さで異なる物質の体積を問う問題では、重さと体積の意味とその関係を正しく理解できるまで説明する。</p> <p>・理科の実験で行った事象が、日常生活の中でも結びつくような言葉かけを行い、理解を深められるよう指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○この領域では11問中9問、市や県の平均を上回っている。特に、正しい草文のはかり方やアゲハが卵を産みつける場所を選ぶ問題では、県の平均正答率を20ポイント以上上回り、観察などの仕方が身に付いている。</p> <p>●くもが昆虫ではない理由を記述する問題は県の平均を10ポイント下回るなど、記述することに課題がある。</p>	<p>・自然の事物・現象の理解を図るとともに、実際に観察する際になぜそうなるのかも自分の言葉で説明するような活動を積極的に取り入れていく。</p> <p>・身近な体験と学習内容を関連付けて考えることで、理解を深めるような場面を設定する。</p> <p>・ICT機器を活用し、観察の際にも実物と比較して詳細まで調べられるようにする</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○温度計の使い方など技能が身に付いていて、90%と正答率が高かった。</p> <p>●観察や実験の記録から読み取る問題に課題がある。</p>	<p>・引き続き、実験道具の扱いについては丁寧に押さえる。</p> <p>・実験結果からどのようなことが読み取れるか考える時間を十分に取し、それをもとに考察させるなど、丁寧に指導する。</p> <p>・太陽と影の動きについて、太陽の動きで影がどのように動くかだけでなく、影の動きによって太陽がどのような動きをしたのか推測することができるように、いろいろな角度から物事とみられるよう指導する。</p>

宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問への肯定的回答は市の平均と比べて17ポイント以上高かった。自主学習への継続的な取り組みにより、学習方法の定着が進んだと思われる。引き続き、学習意欲や課題の質を高められるような支援を続けていきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」という質問への肯定的回答は市の平均と比べて10ポイント以上高かった。学校課題である『主体的・対話的で深い学びの授業』に準じた、個人の考えを伝えあう学習活動を続けた成果と思われる。児童の思考を助長できるような授業展開をこれからも工夫していきたい。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定回答は100%であった。学校活動の基礎となる生活習慣の1つである朝食が、家庭においてしっかりと定着していることがわかる。これからも継続していきけるよう、給食だよりや懇談会などにおいて啓発を続けていく。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問への肯定的回答は市の平均と比べて17ポイント以上高かった。教科や総合的な学習の時間等で、調べ学習のツールとして教科書以外の多様な情報を利用することで、活用する力が伸びていると考えられる。これからも多様な教科や課題の解決のために、頼りすぎないよう適切に活用を進めていきたい。○携帯電話やゲーム、インターネットの1日の使用時間に関する質問において、1時間未満と回答した割合は、市の平均と比べてともに高かった。家庭での約束を守って使用している児童が多いと思われる。一方で使用時間が3時間を超える児童もみられた。上手な活用についての指導は、機会を捉えて繰り返し行っていく必要がある。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問への肯定的回答は市の平均と比べて14ポイント以上高かった。地域や世の中とつながっているという意識が育っていると思われる。地域を題材にした学習や行事、地域ボランティアの活用、社会の出来事を取り入れた授業など、児童が社会をより身近に感じられるような活動をこれからも進めていきたい。

○「次の教科などの学習は、しょう来のために大切だと思いますか。国語～総合的な学習の時間」という質問への肯定的回答はすべて9割を超えていた。今行っている学習は、自分に大切であり将来のためになっているという意識をもって取り組んでいる児童が多いことがわかる。今後も、実生活や未来へつながるような学習課題の設定や授業まとめを行うことで、より実感のある学習活動を行うようにしていきたい。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」という質問への肯定的回答は市の平均と比べて14ポイント以上低かった。上記設問で学習への意欲の高さはみられたものの、家庭学習の習慣としての定着は低い。自己の生活を振り返る活動などで、自分に合った取り組み方について考えさせていきたい。